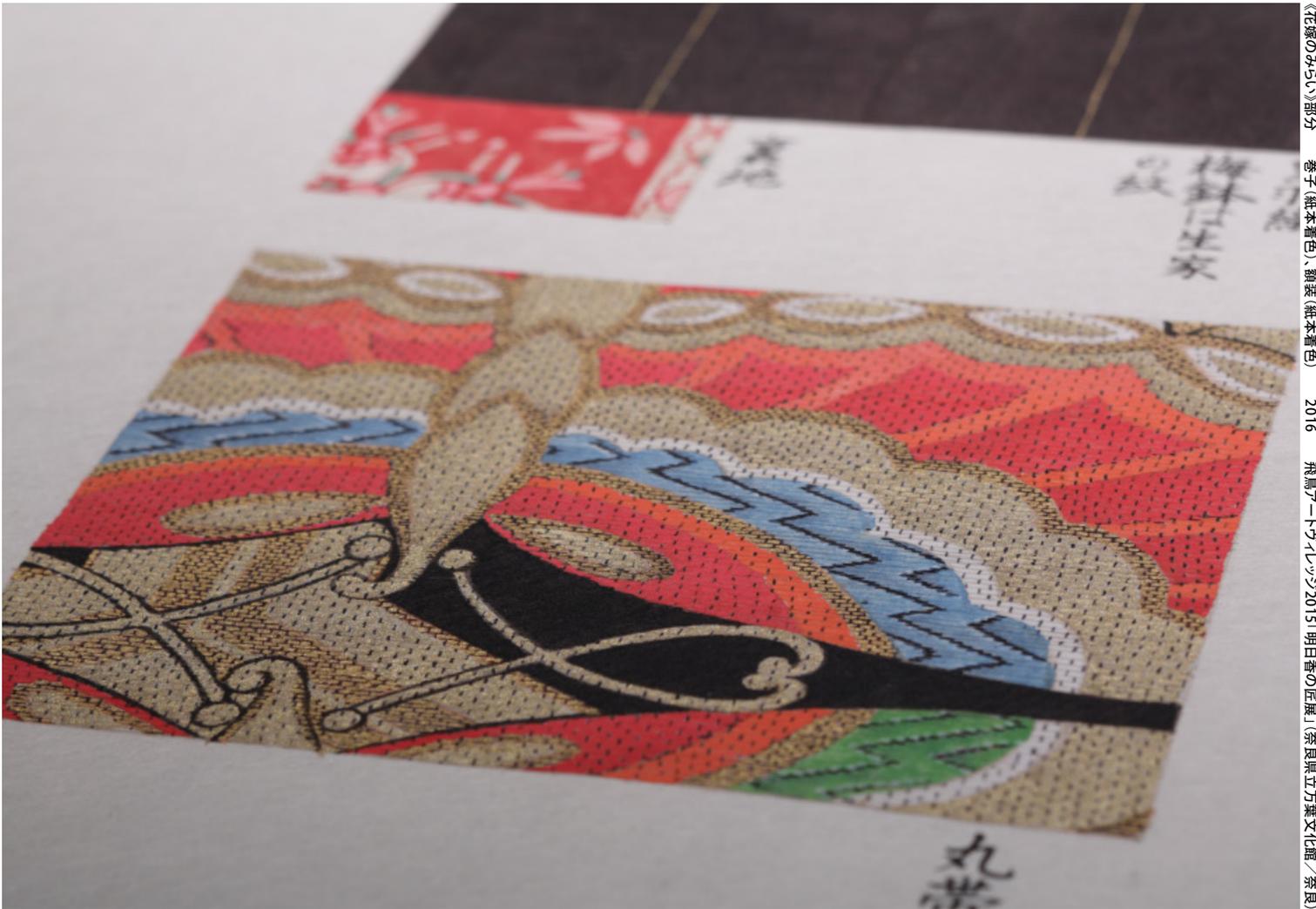




うす、  
うる





《花嫁のまらひ》部分 幸子(紙本着色)、彌生(紙本着色) 2016 飛鳥アートヴィレッジ2015「明日香の匠屋」(奈良県立万葉文化館/奈良)

Gallery PARC[グランマール ギャラリー・パルク]では、2018年12月21日(金)から2019年1月13日(日)まで、中尾美園による個展「うつつ、うつつる、」を開催いたします。

2006年に京都市立芸術大学大学院美術研究科保存修復専攻修了した中尾美園(なかおみえん/大阪生まれ)は、仏画や水墨画の絵師としての活動とともに、日本画における写生・模写の技術をベースとした作品により、2008年の「京展」や2013年の「シェル美術賞」への入選、2015年の公募企画「Gallery PARC Art Competition 2015」でのプラン採択による展覧会『図譜』の開催をはじめ、「飛鳥アートヴィレッジ」(2015年)や「Assemblege NAGOYA 2016 現代美術展『パノラマ庭園 一動的生態系にするすー』(2016年)などへの参加、2018年には「紅白のハグレ」(ギャラリー揺/京都)、「あすの不在に備えて」(元崇仁小学校/京都)の個展を開催するなど、精力的に活動しています。

中尾は日本画における写生・臨画(模写)を「うつつし=残す=記録」の側面で捉え、「絵」をより長い時間を超えて未来に残る可能性を有した柔軟で強度を備えた媒体・行為であるとして、その視点をこれまで様々な作品へと展開させています。

これまで中尾は、自宅近くの水路に流れてくる落ち葉、祖母の嫁入り簞笥に残された小物や着物の柄、今は空き家となった家屋や閉店した喫茶店に残る品々などを丹念な模写によって記録し、絵巻に仕立てています。それは「日々」の中で消失していく「モノ」と「記憶」をうつつした「記録」であり、「絵」はそのための方法でもあります。また、中尾は過去をより遠い未来に「残す」ための媒体としてもまた「絵」であることを選択しています。紙や布に描かれた「絵」は、そこに広げるだけで誰もがアクセス可能な媒体であり、現在のデジタルデータのように機器や形式に依存しない、独立した媒体であるといえます。また、特に日本画は和紙や絵具、道具や技法にいたるまで、保存・補修の技術体系が確立しており、長い時間を超えて現在に残る作品の数々が、それを実証しているといえます。

本展はこれまで同様に、中尾の身の記憶を「うつつし」た絵画をもとに構成されます。同時に「うつつし」が単なる複写(コピー)ではなく、「うつつる」ことで生じた新たな「生」が、やがてオリジナルへと転じていく様相をも見つめることで、行為としての「うつつ」について言及する内容ともなります。その手掛かりとして、本展では「しめ縄」をひとつの定点としています。日本の神道との関係が深く、その歴史も古いしめ縄を、一人の女性(中尾の叔母)の人生の中の重要な位置を占める生業として見つめ、「しめ縄つくり」(行為)とその技の「うつつし」に焦点をおいて構成されます。

絵が、記憶が、技術が『うつつ、うつつる』ということ。またそれが点と点の関係を超えて、広く・永く「うつつ、うつつる、」と連続していくこと。

しめ縄の飾られる年末からお正月の時期、一部展示替えを含む2期構成による本展で、絵画・映像・写真などによって諦観いただけるのではないのでしょうか。



《交代》部分 巻子(紙本着色)、桐箱 2018 キヤラリー一握(京都)

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 うつつ、うつつ、

出展作家 中尾美園 Nakao Mien

<http://www.eonet.ne.jp/~nakaomien/>

会期 2018年12月21日[金] — 2019年1月13日[日] 11:00~19:00

月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

【前期展示】 2018年12月21日[金]—12月29日[土] / 【後期展示】 2019年1月5日[土]—1月13日[日]

\*月曜日および12月30日[日]—1月4日[金]は休廊。

\*前期・後期により一部展示内容が変わります。

料金 無料

内容 [絵画]

仏画や水墨画の絵師としての活動とともに、日本画における写生・模写の技術をベースに精力的に活動する中尾美園の個展。

「見よう見まね」ではじめたしめ縄づくりを60年の生業とする自身の大叔母に習い(倣い)、その技術や記憶を「うつつ」。絵画や写真、映像などによる構成は、年末年始を挟んだ2部構成として、一部展示替え予定。

会場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F MAP

アクセス 地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。室町通・六角通 北東角 室町通側入り口より2Fへ

問い合わせ Gallery PARC (正木・村田・岡田) 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F

TEL= 075-231-0706 FAX= 075-231-0703 MAIL= info@galleryparc.com HP= www.galleryparc.com

もう90歳に届こうとしている大叔母は、小学校の登下校中に駅前の本屋の軒先に飾られていた正月飾りのしめ縄を見て「きれいやなあ」と思った。

「真似してみよう。」と作ってみたら、できてしまった。それから戦争、結婚を経て、嫁ぎ先の家業の合間に本格的に作り始めて60年以上経つ。

もうすでに大叔母の地域では、しめ縄を作る人は大叔母ただ一人だけ。

今では少し離れたお店にも商品として求められるようになった。

マネして身に付けた技は、いつから唯一のホンモノに変わりはじめなのか。

子どもの頃から、大叔母のこの手仕事を見てきた私。今、きちんと向き合ってみようと思っている。

作家自身の身体を通過して蓄積されたもの(制作物など)を通じて、他人の記憶・身体性の深化と未来への伝達や変化、その残余物を提示する。

同時に、人がコピーする行為を通じてできた新たな「生(コピーのコピー)」のあり方、コピーとオリジナルの入れ替わりわりもみていく。

しめ縄は日本の神道との関係が深く、その歴史も古い。価値のありようは本来的には土地の風土や習慣、文化に大きく基底されることにも若干触れつつも、本展覧会では一人の女性の人生の中の重要な位置を占める生業としての「しめ縄作り」(行為)の方に焦点をおく。

中尾 美園

## 中尾 美園(なかお みえん)

<http://www.eonet.ne.jp/~nakaomien/>

2006 京都市立芸術大学大学院 美術研究科保存修復専攻 修了

### 【主な展覧会】

2006 京都市立芸術大学大学院修了制作展[大学院市長賞](京都市美術館)

2008 京展「館長奨励賞/09 須田賞・芝田記念賞」(京都市美術館)

2013 個展「いつかの庭」(KUNST ARZT/京都)

-- シェル美術賞[入選](国立新美術館)

2015 アーティスト・イン・レジデンス「飛鳥アートヴィレッジ 2014」(国営飛鳥歴史公園/奈良)

-- 個展「図譜」(Gallery PARC・京都)

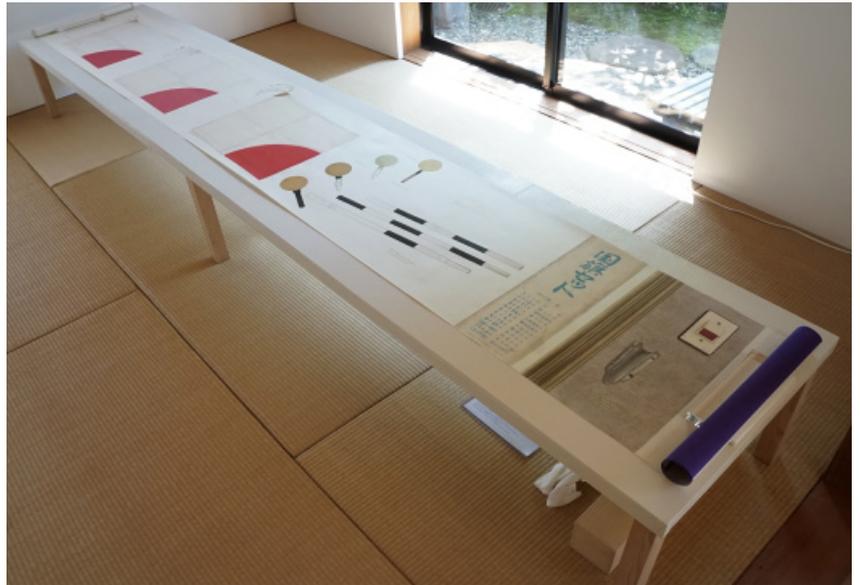
2016 飛鳥アートヴィレッジ2015「明日香の匠展」(県立万葉文化館/奈良)

-- Assembridege NAGOYA 2016 現代美術展「パノラマ庭園 一動的生態系にするすー」(ポタンギャラリー/愛知)

-- 個展「Coming Ages」(Ns ART PROJECT/大阪)

2018 個展「紅白のハグレ」(ギャラリー揺/京都)

-- 個展「あすの不在に備えて」(元崇仁小学校/京都)



《久代切》 卷子(紙本着色)、桐箱 2018 ギャラリー揺(京都)



個展「あすの不在に備えて」展示風景 元崇仁小学校(京都) 2018



《遠い未来 近い将来》(部分) 卷子(紙本着色)、桐箱、ブラックライト、色見本(紙本着色) 2016  
Assembridege NAGOYA 2016 現代美術展「パノラマ庭園 一動的生態系にするすー」 ポタンギャラリー(MAT/名古屋)  
撮影: 怡土鉄夫 写真提供: アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会